



# GLOBAL GAZETTE

大分県立芸術文化短期大学

国際総合学科 通信

Spring, 2020

## 2020 年度入学式挙行

4月6日(月),第60回入学式および新入生オリエンテーションが執り行われました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、マスク着用、手指の消毒、間隔をあけての着席といった対策が取られたうえで、本学大講義室での実施となりました。小手川学長は式辞で「これから失敗を恐れずにチャレンジを繰り返し、最高に身の詰まった2年間を過ごしてください」と励ましの言葉を送りました。新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます!例年とは異なる新年度となりましたが、皆さんにとって実り多い2年間になることを願っています。



## 新入生全員にタブレットを配布

延期されていた新学期の授業が始まり、感染拡大を防止するための様々な対策を取りながら授業がすすめられています。オンラインで開講される科目が多



いため、本学科では新入生全員に一台ずつタブレット端末を配布しました。教室で会う機会が少ないのは残念ですが、タブレットを大いに活用して勉強に励んでください!



## 新1・2年生 学科オリエンテーション開催

4月17日(金),新入生と新2年生を対象とした学科オリエンテーションが実施されました。疇谷学科長はそのなかで、かつて誰も経験したことのない事態だからこそ、「生きる」ことを力強く前向きにとらえてほしいと激励しました。友人や先生と交流する機会はまだまだ限られていますが、この日から前期開講までの2週間、じっくりと学習計画を立てる時間になったはずです。



## 千賀講師が碩学舎賞一席を受賞

本学科の千賀喜史講師が、論文「ESG 活動におけるKPIと管理システムの効果的な組み合わせ」にて、第6



回碩学舎賞一席を受賞しました。この賞は、若手研究者による経営学分野の優れた研究を表彰するもので、隔年で開催されています。おめでとうございます!ますますのご活躍をお祈りしています。

国際総合学科 Facebook ページ



<https://www.facebook.com/geitanglobal>



## ニュージーランド語学実習レポートが届きました！

本学科2年、三森大塚（みつもり・たいか）さんより、2月10日～3月9日に実施されたNZ語学実習のレポートと現地写真が届きました。ご本人の許可を得て、その一部を掲載します！

### 「クライストチャーチで学んだこと」

クライストチャーチでの生活は、私の人生の中で最も有意義な経験となったと言っても過言ではない。(…)私は、英語がかなり得意なつもりでいたのだが、実際に行ってみると自分でも驚くほど喋ることができなかつた。NZに着いて間もない頃は、簡単な問答や挨拶すら上手くこなすことができなかつた。そして、私は座学だけで流暢に喋れる事は困難であり、語学はその言語を使う地域で生活して身につくものだと感じた。また、もう一つ気づいたことがある。それは、「英語を喋れなくても、最低限の生活はできる」ということだ。(…)買い物もお金さえ払う事ができれば困りはしないと思った。英語を喋るうえで大切なのは、座学の英語が出来ることよりも、流暢に喋ることよりも、片言でも自分の語彙でどうにか喋ろうとする事ではないか。



(…) NZに実際に行く前はなんとなく「白人の国」というイメージがあった。しかし、実際に行ってみるとそれは間違いだ

と気付く。アジア系、アフリカ系、インド系など様々な人種の人々が街を歩き、そこで働いている。(…)私は自分が知らず知らずのうちに、どれだけ偏見に満ちた目で世界を見ていたのかを思い知らされた。世界は私が想像する以上にグローバル化が進んでおり、インターネットや教科書の知識だけでどこか世界を知った気になっていた私には驚きだつた。

(…) もともと人付き合いが得意ではない私にとって留学中の1ヶ月は、今までの人生で一番人間関係の構築に努めた時期であつたかもしれない。何しろ、身寄りの全く無い海外で1ヶ月間生き延びねばならなかつたのだ。幸いホストファミリーは優しく親切な方々で、大学では友達も作れた。彼らがいなければ私の留学生活はもっと粗末で実りのないものになっていただろう。地元で暮らしていると心の拠り所として家や親が近くにある安心感があるが、それが無いNZでは頼り頼られる関係を作るのに必死だつた。これほど人間関係の重要性を痛感したことはない。



(…) 私が振り分けられたクラスには日本人、中国人、タイ人そしてカンボジア人がいた。(…) 既にかなりNZでの生活と英語での会話に慣れていようだつた。しかし、そんな彼らにも知らない言葉や文法はあり、英語での会話でも上手いかない事が度々あつた。(…) その時私は世界には日本語も英語も通じない人がいるのだと知つた。国際社会でも必ずしも英語なら伝わるとは限らない事がわかつた。また、英語が通じなかつた

たとしてもジェスチャーやボディランゲージなどで乗り越え

られることもある。様々な国の人が入り混じる教室では英語以外のコミュニケーションの方法についても考えさせられた。(…) ここに記せたのはほんの一部に過ぎない。だが、特にこれらの経験

は私がこれから生きていく上で大切にしたいと思つたものだ。これらを教訓として、これからの生活をより豊かなものにしていきたいと思う。



国際総合学科 Instagram ページ



<https://www.instagram.com/geitankokusa>

